

## 【渋川女子高等学校アメリカ研修 1 日目報告書】

まだ夜の名残が濃く残る早朝 5 時半。冷えた空気の中、渋川女子高校の生徒 24 名が学校に集まりました。辺りは真っ暗なのに、保護者の皆さまは大勢お越しくださり、この旅立ちを温かく見守ってくださいました。出発式では先生より「この研修では、自分から動くことが大切。自分から動かないと自分を変えることはできない」というメッセージをいただきました。この研修は、単なるホームステイ研修でも語学研修でもありません。10 日間の活動を通してグローバルな視点と行動力を身に付けるよう挑戦を繰り返す研修です。生徒たちは静かに、しかし確かな緊張と期待を胸に刻んだ様子でした。

バスが走り出すころ、東の空がゆっくり色づき始めます。黒から藍、そして透き通るようなオレンジへと移ろうグラデーションは、まるでこれから始まる冒険を祝福しているかのようでした。羽田空港第二ターミナルに到着後、スーツケースを持ってチェックインに進みます。一人ひとりパスポートを手に機械の前で操作をし、搭乗券と荷物タグを印刷。スーツケースを預けるところまで、すべて自動化されています。ANA のスタッフの方は近くに待機されているので困った時は尋ねることはできますが、基本的にはモニターの指示に従って必要事項を入力していきます。少し手間取るかな？と思いましたが、やはり渋女生！お互いに助け合いながら無事に保安検査へ進むことができました。昼の便ということもあり、機内ではしばらく賑やかに談笑が続きました。「寝たら時差ボケこわい～」と言いながら映画を見続ける生徒、イヤホン片耳だけつけて友人と小声で話し込む生徒……。この時は楽しそうでしたが、後に体力を削る伏線になるとは誰も気づいていません。

アメリカ到着は JFK 空港。いよいよ入国審査です。列に並びながら「何日滞在？ 9 日？ 10 日？」「目的は？ Study？ Education？」「緊張してきたんだけど！」とそわそわしつつも、なぜか笑いが絶えないのが渋女生らしいところ。緊張を笑いに変えて乗り越えるしなやかさと明るさが、ここでも光っていました。無事に入国を終えた後は、ニューヨークからボストンへ向けてバスで約 5 時間の移動です。途中のサービスエリアでは、マクドナルド、ダンキン、サブウェイなど見慣れたロゴが並ぶ中、「英語で注文」という小さな試練が待っています。ぎこちなくも「Can I have…」と言い切る姿は頼もしく、たくさんの“初めて”をくぐり抜けているのがよくわかりました。食事を終えたバスでは、さすがに疲れが出たのか、さっきまでの元気が嘘のように静まり返り、寝息が心地よく響きます。ボストン到着後は、3 台の車に分かれてホストファミリー宅へ向かいました。長旅の疲れで目をこすりながらも、どこか期待に満ちた顔で乗り込んでいく生徒たちの姿から、“ここからが研修本番”という実感が伝わってきます。

明日は、昼頃に集合して語学学校周辺を確認します。地下鉄やバスを使って自力で集合するため、ここでも「初めて」の連続です。本日の様子を見るかぎり、きっと大丈夫。小さな挑戦の積み重ねが、これから彼女たちを大きく成長させていくはずです。

